

**猫の生活** (マツト・トレッシュ)

猫の生活は大変だ。私はいつも食べ物を探しなから東京の町をさまよっている。

夜になると、私の目つきはするどくなる。ハンティングのじかんだからだ。だが何もつかまえられなかった。毎日大変だ。一晩たつても、まだおなかがすいたままだ。朝になったので、いろいろなレストランに行ってみた。主人は「シツ、あっちへ行け！」と言う。私はしずかに「ニャー」となく。おなかがすいているし、かなしかった。

うちに帰るとちゅうで、友だちのロツカにあった。ロツカはやさしい猫だから、よく食べ物をわけてくれる。私はよろこんで「ニャー」とないた。やがて眠くなった。ベッドのようにきもちのいいこうえんをみつけた。私はのんびりいけの水をのんだ。じゃ、おやすみなさい。夢の中で友だちにありがとうと言った。夢の中で幸せになった。

**私は猫** (メスフィン・セナイ)

私は猫です。「ニャア」と言うのが好きです。ご主人様は「モモ」という愛称で呼んでいます。ご主人様は優しいけど、時々厳しいです。

最近、私はご主人様のベッドで昼寝しました。ご主人様は家に帰った時、「モモ！モモはどこ？」と言って私を探し始めました。そして私がベッドの上にいるのを見つけて、怒りました。「モモ、ベッドから降りなさい！」と言いました。でも私をしかつたことをこうかいして、その後私にトロをくれました。

先週はカーペットの上でそそうをしてしまいました。ご主人様はとても怒りました。私はトイレに座らされて、そこでちゃんとさせられました。トイレは怖かったです。昨日は、ご主人様は退屈していたので、私にコスプレをさせました。ドレスを着せられて恥ずかしかったです。今日は、家を抜け出して、外を歩いたので、体が汚れてしまいました。後で家に帰った時、カーペットに足あとがつかしました。そのあとカーペットを掃除させられました。ご主人様はこのように厳しいけど、ご主人様が大好きです。

**私がねこだったら** (スザンナ・ゴンザレス)

もし私がねこだったら、名前はミミでしょう。私の毛はパンサーのように黒くなり、目はみどり色になるでしょう。たぶんやせていると思います。そして、なまけもののねこになると思います。

今、私はねこです。たくさんねこたちを知っています。でも、ほかのねこたちがあまり好きじゃありません。みんなは私にねずみをたべさせたからです。ひどいけいけんでした。私は、ねずみが好きなのに。ねずみはとてもかわいいのに。かわいそうなねずみ。なんてことでしょう。

まいにち、私はみんなにわらわれます。こわくてかなしいです。でも、わかります。私はねこなのに、ねずみをたべないからです。とてもへんなねこですよ。ああ、人間になりたい。ねずみをたべたくない。だれかたすけて！

**某猫氏の日記** (タイス・ウィル)

朝の風は僕の毛皮をふわりとなでた。めざまながら、ゆっくりとあくびをした。起き上って、目を開けて、周囲を見回した。東京の住民はまだ起きていなかった。

朝日が徐々に建物の間を昇って行く。体を伸ばして、しなやかに高塀に飛び乗った。高塀から日の出が見えた。日の出を見ながら、足をペロペロなめた。

その後、やっと住民が起きて家を出た。高塀の下で、お母さんと女の子が学校へ向かって急いでいた。まだかな、あの人。あっ！あそこだ！やっと、いつもの、あのおばあさんが来た。

高塀から地面に飛び降りて、おばあさんの後をついて行った。いろいろな建物の前を通り過ぎた。早くあの店に行きたい。待てないよ。やった！やっと、あの店に着いた。おばあさんが何か注文した。店員がおばあさんに包みを渡した。チャンスが来た！おばあさんを見上げた。「ニャオ、ニャオ」と鳴いた。おばあさんは「あ、あなたね。はい、はい。ちょっと待って」と言った。包みに手を入れた。「はい、どうぞ。」おばあさんの手には、魚があった！おばあさんはニコニコした。うれしくて「ニャー」と答えて、魚を持って行った。次の冒険は何だろう？

### ねこだったら (コートニー・キンボール)

ある日、朝起きたら、ねこになっていました。初めはこわかったです。かがみを見た時はとてもびっくりしました。けがわの手としっぽがあるのですから。いったいどうしたらいいかわかりませんでした。

でも、急にのどがかわいたので、れいぞうこに行って、皿にぎゅうにゅうを入れて飲みました。そして、自分がきたないのに気がついて、けがわをなめて、きれいにしました。やがて、ねこになってしまっても、大丈夫だという気がしてきました。

朝ごはんの後、自分のネコかとしてののうりよくを、ためしてみたくになりました。外であそんだり、木にのぼったりして、ねこになる前にできなかったことを色々してみました。外であそんでいると、犬がにわにきました。犬は吠えたり、私のあとをおいかけてたりしたので、私を食べようとしているのだと思いました。

犬がとてもいじわるだったから、家に帰りました。つかれていたから、まくらの上でひるねをしました。でも、ねていたら音が聞こえてきました。れいぞうこの後ろにねずみがいるのがみえました。ねずみはチーズをぬすもうとしていたのですが、私はねずみが家にいるのがいやでした。だから、ねずみをおいかけて、家中をはしりました。でも、ねずみはとても早かったから、つかまえられませんでした。

そうしたら今度は犬が家に入ってきました。犬はねずみと私をおいかけたので、たくさんかぐが転んで、部屋がめちゃくちゃになりました。ねずみといっしょにだいどころのドアをしめたら、犬は中に入れなくなったので、やっとあんぜんになりました。それから、ねずみと友だちになりました。ぎゅうにゅうとチーズのばんごはんをいっしょに食べて、とても幸せでした。ねこになったのは楽しかったです。